



あ

● アセットマネジメント

水道におけるアセットマネジメントとは、中長期的財政収支に基づき、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する実践活動のことです。

い

● 一日最大配水量

年間で最も多く給水した日の配水量のことです。

● 一日平均配水量

年間の総配水量を年日数で除した配水量のことです。

え

● 塩化ビニル管

耐食性に優れており、軽量で施工性がよいため、配水管や給水管などに使用されてきましたが、衝撃や熱に弱く、紫外線により劣化し、凍結すると破損しやすい短所があります。

お

● 応急給水

地震や事故などで断水した際に、給水車などで飲料水を供給することです。

か

● 化石燃料

石油や石炭、天然ガスといった地下に埋まっている燃料資源のことをいいます。

● 簡易水道事業

給水人口が101人以上、5,000人以下の水道事業のことです。

き

● 基幹管路

導水管、送水管及び配水本管（給水分岐のないもの）のことをいいます。

● 基幹管路の耐震管率

基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、100%に近いほど良いとされ、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標の一つです。

● 企業債

地方公営企業が行う建設改良事業などに要する資金に充てるために、借り入れる地方債のことです。

● 給水区域

水道事業が事業を展開している区域のことです。

● 給水収益

水道事業会計における営業収益の1つで、水道料金として収入となる収益がこれに当たります。

● 給水人口

給水区域内に居住しており、水道からの給水を受けている人口のことです。

● 行政区域内人口

行政区域内に居住している人口のことです。本ビジョンにおける行政区域内人口は、京都府推計人口を用いています。

け

● 経年化資産

法定耐用年数を超え、耐用年数の1.5倍以内の施設を経年化資産としています。

● 減価償却費

有形固定資産の取得価格を当該資産耐用期間にわたり各事業年度に配分した費用のことです。

● 原 水

河川や井戸などから取水した水で、浄水処理を行う前の水のことです。

● 建設改良費

水道施設の新設及び改良のための経費です。

● 健全資産

耐用年数以内の資産のことです。

こ

● 広域化

給水サービスの高度化やライフラインとしての社会的責務を果たすために必要な財政基盤及び技術基盤の強化を目的として、複数の水道事業等が事業統合を行うこと、または、その目的のために複数事業の管理の全部もしくは一部を一体的に行うことです。

● 鋼 管

素材に鋼を使用した管のことです。強度に富み、延伸性も大きいため、大きな内・外圧に耐えることができますが、ほかの管材に比べ施工性に劣ります。

● コーホート要因法

人口予測に用いるコーホート要因法は、基準年度の男女年齢5歳階級別人口に、生残率や移動率、出生率の仮定値を用いて、将来人口を予測する方法のことです。

さ

● 財政収支

歳入と歳出の差を言います。歳入が歳出を上回る場合は黒字、下回る場合は赤字となります。

● 最大稼働率

施設能力に対する一日最大配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標の一つです。値が高い方が施設を有効活用しているといえますが、100%に近い場合には、安定的な給水に問題があるといえます。

し

● 施設能力

水道施設の設計に基づく最大能力のことです。

● 施設利用率

水道施設の施設能力に対する一日平均配水量を表すものです。この比率は、水道施設の経済性を総括的に判断する指標であり、数値が大きいほど効率的であるとされています。

● 資本的収支

事業活動を将来にわたって持続していくために必要な建設改良及び借り入れた企業債の償還金などの支出と、その財源となる収入のことです。

● 収益的収支

事業活動に伴い発生する全ての収益とそれに対応する全ての費用のことです。

● 取 水

水源から原水を取り入れることです。

● 小規模水道事業

給水人口100人以下に給水または受水槽の容量が10m³以下の水道事業のことです。

● 浄水施設の耐震化率

全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、100%に近いほど良いとされ、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標の一つです。

● 浄水場

取水した水を飲料に適するように処理する施設のことです。原水の水質によって処理方法が異なりますが、多くは、沈殿池、ろ過池、浄水池、消毒設備などで構成されています。

● 上水道事業

給水人口が5,001人以上の水道事業のことです。

す

● 水 源

水道として利用する水の供給源のことで、河川、湖沼、ダム、地下水などがあります。

● 水質基準

水道水は、水道法第4条の規定に基づき、「水質基準に関する省令」で規定する水質基準(51項目)が定められています。

● 水道事業

給水人口が101人以上の水道により水を供給する事業のことです。

せ

● 石綿管

繊維セメント(セメントとアスベストを混合して製造したもの)を用いて製造した管です。強度などの弱点がある古い管で、現在は製造されていません。

そ

● 総収支比率

総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つです。この業務指標が100%未満の場合は、収益で賄えないこととなり、健全な経営とは言えません。

● 送水管

浄水場またはポンプ場から配水池まで水道水を送る管路のことです。

● ソフト対策

災害による被害を少しでも軽くするための対策のうち、マニュアル作成など、工事以外の対策のことをいいます。

た

● 耐震化

地震が発生しても水道施設の被害を最小限に留め、被害が発生した場合においても早期復旧が行えるように施設を補強・補修または改築することです。

● 耐用年数

固定資産が、その本来の用途に使用できると見られる推定の年数のことをいいます。

● ダウンサイジング

コストダウンや効率化のために、水道施設の規模を縮小することをいいます。

● ダクタイル鋳鉄管

ダクタイル鋳鉄管は、材料にダクタイル鋳鉄を使用した管のことです。ダクタイル鋳鉄は強度や延性を改良した鋳鉄のことで、従来の鋳鉄管の代わりに、水道管やガス管などに使用されています。

● 濁 度

水の濁りの度合いのことです。

ち

● 地下水

地表面下にある水をいいます。

● 鋳鉄管

鉄合金（鋳鉄）で作られた管のことです。現在は、より強度の強いダクタイル鋳鉄管が製造されていることから、鋳鉄管はほとんど製造されていません。

と

● 導水管

水源で取水した原水を浄水場まで導く管路のことです。

● 統廃合

水需要が減少している現在において、過大な能力となっている水道施設を統合し、適性規模の施設を残して廃止することにより、維持管理の効率化及び更新費用の削減を図ることです。

な

● 内部留保資金

企業内に留保される自己資金のことです。

は

● 配水管

配水池から各家庭の給水管まで水道水を配るための管路のことです。

● 配水池

給水区域の需要に応じて適切に配水を行うために、浄水処理を行った水を一時的に貯留する施設のことです。

● 配水池の耐震化率

全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、数値が大きいほど良いとされ、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標の一つです。

● 配水量

浄水場などから家庭や工場などに供給する水量のことです。

● 配水量1㎡当たり電力消費量

配水量1㎡当たりの電力使用量を示すもので、数値が小さいほど良いとされ、省エネルギー対策への取組度合いを表す指標の一つです。

● ハード対策

災害による被害を少しでも軽くするための工事による対策のことをいいます。

ひ

● 表流水

河川の表面を流れる水のことです。

ふ

● 負荷率

一日最大配水量に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標の一つです。数値が大きいほど効率的であるとされています。ただし、観光地などにおいては、繁忙期と閑散期で配水量の差が大きく、この数値が小さくなり、土地利用状況などに影響される指標です。

● 普及率

本ビジョンにおける普及率は給水普及率をさしています。この給水普及率は、現状における給水人口と給水区域内人口の割合のことです。

ほ

● 法定耐用年数

地方公営企業法で規定されている耐用年数のことです。

● 法定耐用年数超過管路率

管路の延長に対する法定耐用年数を超えている管路の割合を示すもので、数値が小さいほど良いとされ、管路の老朽化度、更新の取組み状況を表す指標の一つです。管路の更新率と密接な関わりをもち、通常、更新率が高ければ経年化管路率は低くなります。

● ポリエチレン管

プラスチック管の一種で、重量が軽く施工性がよい管で、耐食性に優れています。熱や紫外線に弱く、有機溶剤による浸透に注意する必要があります。

● ポンプ場

ポンプ圧送方式により水を送る設備を設置している施設です。

● ポンプ所の耐震化率

耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、100%に近いほど良いとされ、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標の一つです。

み

● 水安全計画

水源から蛇口までの水道システム全体の水質管理を一元的に行い、考えられる危害を分析し、その対策を用意することにより、安全な水道水をより安定して供給するための計画です。

● ミクロマネジメント

水道施設の日常的な資産管理(運転管理及び保全管理)のことをいいます。

ゆ

● 有収水量

料金徴収の対象となった水量及び公園用水、公衆便所用水などで他会計等から収入のあった水量のことです。

● 有収率

年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標の一つです。有収率は、100%に近いほど良いとされ、漏水防止・経営効率向上の観点で従来から重視されてきましたが、近年は水源の有効活用、漏水量の減少による省エネルギー効果といった環境負荷軽減の観点からも注目されるようになっていきます。

り

● 料金回収率

給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標の一つです。数値が大きいほど良いとされ、100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外の収入で賄われていることを意味します。

ろ

● 老朽化資産

法定耐用年数の1.5倍を超えた資産のことです。

記 号

● BCP

業務継続計画(Business Continuity Plan)の略で、災害などの非常時においても、事業を維持し、又は早期に事業を回復させるための計画のことです。

● DX

デジタルトランスフォーメーションの略で、データとデジタル技術を活用して商品やビジネス、業務、企業文化等の変革を成し遂げるもので、水道事業では、DXによって施設管理や料金計算、検針などの業務を効率化・最適化することができます。

● HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)

食品の衛生管理の手法で、食品の安全を脅かす危害要因(ハザード)を分析し、それらを除去または低減するために重要な工程(CCP)を管理する方法のことです。

● ICT

Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやインターネットなどを使って、情報や知識を共有したり、人と人とをつなげたりする技術のことです。

● OJT(On the Job Training)

職場の上司・先輩が部下や後輩に対し、職務上必要な知識やスキルを修得させるために、実務を通して行う指導・教育訓練のことです。

● PDCAサイクル

品質管理の手法であり、P(Plan:計画)→D(Do:実行)→C(Check:点検)→A(Action:改善)の順に作業を実施して、A(Act:改善)を次のP(Plan:計画)に繋げることで継続的な業務改善を行っていくものをいいます。

1	水道事業ビジョン策定の 背景及び位置付け
2	京丹後市水道事業の概要
3	現状評価・課題
4	将来の事業環境
5	理想像と目標設定
6	推進する実現方策
7	フォローアップ
	資料編
86	

水道施設配置図







京丹後市